

日本小児感染症学会若手会員研修会第6回瀬戸内セミナー

瀬戸内セミナーをふり返って

成 相 昭 吉*

今年から、ジュニアチューターを要として課題に取り組む形となり、Eグループだった自分は、荘司先生にすっかり任せて事前のメーリングリストでのやり取りを眺めていました。

この第6回小児感染症夏季セミナーの1週間前、小児科学会専門医試験が京都でありました。試験運営委員を務めて3年、監督をしながら問題を確認するのも責務の一つですが、今回はとても難しいものでした。後日開催された判定会議で、筆記試験の点数が例年よりも低い分布とわかりました。しかし、これは受験者の質の問題ではなく、求められている水準の指導ができていない指導医の問題であると、自分の胸に手をあてて考えていました。

瀬戸内セミナーをふり返ってみて一番印象に残ったのは、荘司先生の感染症に関する知識の豊

かさ、奥深さ、そして判断の切れ味のすばらしさでした。一つの領域において、そのような水準に達していないと、若い先生たちの指導はできないのではないかと、今も思い続けています。

10月末に福島で開催された小児感染症学会では、時間の許す範囲でBasic courseを見学しました。齋藤先生、宮入先生、堀越先生、笠井先生、荘司先生と一緒に、その指導を受けた若い先生たちが指導を担当されていました。やはりその知識と臨床眼に、感心しました。

夏季セミナーやBasic courseでは、小児科学会が求める以上の小児感染症領域の情報に触れることができます。いずれも若い先生たちには、その先に生きるよい経験になるはずですが、まずは来年も、夏季セミナーにたくさんの若い先生方のご参加を、お待ちしております。

* * *

* 横浜南共済病院小児科